東日本ユニオンにいがた

http://www.geocities.jp/higashinihonunion_niigata/

JR東日本労働組合新潟地方本部
２０１９年3月１０日発行
第１９号（通巻第１１９号）
発行者：星山 圭　編集者：教育・広報部

新潟地区で新たな仲間が加入！

東日本ユニオンに結集しよう！

200名の組合員が結集！たたかいの方針を決定！

新潟地本は２月２３日、新潟東映ホテルにおいて第５回定期地方委員会を開催しました。
委員・傍聴など２００名の組合員が結集し、向こう半年間の活動方針を満場一致で決定しました。

JR東日本労働組合新潟地方本部
第５回定期地方委員会

新潟地方本部　星山執行委員長あいさつ

全組合員で働きやすい職場をつくり JR労働運動の一元化を実現しよう！

昨年の地本大会以降３名の加入をいただいた。共にユニオン運動のスタートを切っていきたい。

現在、JR東日本では約７割の社員が労働組合に所属していないと言われている。一方で会社施策に翻弄され、不満を口にし、この会社はどうなってしまうのか不安や怒りを感じている社員も少なくないのが実態だ。

◆　◆

２０１９春闘において、社員の基本給、エルダー社員、グリーンスタッフの基本賃金を一律６０００円引き上げることを要求とし申し入れた。

２月24日に本部主催で開催される春闘総決起集会に向けて、文字通り全組合員に総結集を求めた。

労働側の力が分散し弱くなっている中で、私たちは会社に対抗し得る労働組合を目指している。

普段は職場も職種もバラバラな私たちが、要求を実現したいときに、いざたたかうときに総決起できるのかが問われた。

役員、組合員の皆さんに議論を尽くして向かっていただいた。

結果、新潟地本から１７０名をこえる参加者で集会に向かう。参加できなかった仲間に報告し、共に議論することを通じて全組合員参加としていこう。

◆　◆

羽後本荘駅において我が組合員が業務中に命を落とすという悲しい事態が発生してしまった。生きていくための労働の中で命を落とすことがあってはならない。

これまでも安全・事故防止という視点で会社施策や職場で日々発生する事象に対峙をしてきたが、もう一度職場の現実や発生する事象、設備やルールの問題、会社から提案される施策などに対して命を守る目を持って解決できる労働組合になろう。

一度は問題にしながらも結果として放置されてしまっている事象や会社施策はないのかも検証していこう。

JR労働運動の一元化に向けて組織の未来像を明確にしよう

エルダー社員制度について、スケジュールが守られない、希望職場に行けない、雇用先の労働条件が分からない、労働環境が悪いなど問題は山積しているが、会社側に解決しようとする姿勢はない。

65歳まで雇用は確保するが手厚くはしない。会社が金を出せば雇用先は増える。条件も良くなる。それが大きな要素だ。

来年度も約２００名の制度利用対象者がいると言われているが厳しい数字だということは誰でもわかる。この認識についても会社に問うとともに、この間改善されていない問題についても引き続き訴えていく。

◆　◆

JR労働運動の一元化について、私たちの組織の未来像を明確にしていこう。

同時にその未来像に近づくための運動が必要だ。

労働運動の一元化を具体的にイメージし、そのために今何をすべきなのか？一人ひとりはどうしていくのかなど議論し実践していこう。

「組合員に責任を持つ労働組合ならばこんな時どうするのか？」と考え実践する事が東日本の未来を確実につくっていく端緒になるのではいか。

JR東日本で働く労働者のためになる運動を職場から全組合員でつくりだしていこう。

東日本ユニオンの更なる拡大と強化を実現するために全組合員で実践していこう。

13名の委員が半年間の実践を発言

委員会は、新潟支部の伊藤委員を議長に選出し議事を進行しました。

質疑では13名の委員から発言を受けました。

組織の強化・拡大に向けた職場での実践、２０１９春闘の要求満額獲得実現に向けたたたかい、電気部門の変革２０２２や乗務員勤務制度の見直しをはじめとする効率化施策や制度変更に対する取り組みや問題点などについて発言がありました。

いずれも定期大会以降の組合員１人ひとりの実践に基づいた内容で、教訓に富んだものでした。

活動方針案などすべての議案は満場一致で承認され、職場からの取り組みを通じた組織強化・拡大に向け全組合員で奮闘していくことを確認しました。